

今月はドイツの古い伝説をもとにした物語をご紹介します。

『クラバート』

オトフリート=プロイスラー／作 中村浩三／訳 偕成社 1986年 ¥1600(税別)

<お勧め年齢>

乳幼児☆☆☆ 小低学年☆☆☆ 小中学年☆☆☆ 小高学年★★☆ 中学生★★★  
高校★★★ 一般★★★

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

湿地にある粉ひき水車場に、夢のお告げで導かれるようにたどり着いた孤児のクラバート。そこは魔法使いの親方が運営する魔法学校でした。クラバートも見習いとなるのですが、実は大変恐ろしい秘密がかくされています。毎年大みそかになると必ず誰か一人がいなくなるのです…。

作者は『大どろぼうホッツェンプロッツ』や『小さい魔女』などを書いたプロイスラー。彼がドイツに古くから伝わる「クラバート伝説」に感銘を受け、11年の歳月をかけて作ったブラックファンタジーである本書は、プロイスラー文学の頂点をなす作品とも言われています。

<子どもに手渡す時のポイント>

落ち着いた表紙に文章量の多い本なので、子どもたち自身ではなかなか手に取りたがらないかもしれません。そのような時は、読んでいくと続きが知りたくてやめられなくなるような物語、ラストは背筋が凍るようなドキドキ感が味わえる本だと紹介してください。

映画監督の宮崎駿氏も、この本の伝説や描写に感動したと語り、映画「千と千尋の神隠し」にも影響を与えたそうです。(参考:『宮崎駿全書』叶 精二／著 フィルムアート社)類似性を感じる部分もありますので、このエピソードを伝えても興味をもってくれると思います。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

